



### 小田急多摩線多摩急行

#### 麻生川桜並木から



高曇りの昼。麻生川の桜並木を柿生から新百合ヶ丘に向かつて歩く。この季節は桜も紅葉にはまだ早い。黄色く色づいている葉、あるいは晩秋の赤を待たずに茶色く散ってしまった葉も見受けられる。最近の桜葉は紅葉の前に散ることもあるようだ。

十分ほど歩くと、多摩線の高架下に行き着く。今日の狙いはこの場所である。多摩線が開通した時から好きな景色なのだ。高いコンクリートの橋桁を、空に飛び立つように新百合ヶ丘駅発の列車が行く。夜は銀河鉄道を走る列車を仰ぎ見るようなメルヘン的な光景。柿生方面からみれば、マンションなどの集合住宅が立ち並んだ風景から切り替わる地点でもある。

新百合ヶ丘駅始発の多摩線を行く車両を何台か見送った。その麻生川のほとりにはちょうどよくベンチがあり、一呼吸する。まずはコンビニで買った野菜サンドイッチをほおぼる。これが今日の昼食。さあ、腹ごしらえは済み、ここをものにした。

振り返れば多摩急行の新車両がやってくる。ここは透かさずカメラでパチリ。さわやかなグリーンラインを引いて、高架を滑るように走りゆく車両。鉄道ファンでなくとも美しいと思う。これは乗り入れている千代田線直通の列車で唐木田が終点である。

高架下の狭い畑では、キャップを被った年配の男性が腰に蚊遣りを提げて農作業をしていた。目の前には、キバナコスモスが咲き乱れている。その隣には「シエラ畑新百合ヶ丘」がある。ここでは初心者でも野菜づくりができるように「菜園アドバイザー」がいて、農具や資材、種、苗なども用意されている。

絵と文 松田洋子

からむし六十三号の  
ラインナップをご紹介します

P 1 麻生区の風物紹介

今号は松田洋子さんが描く多摩線高架を多摩急行が走る風景です。

P 2~3 地域に根ざす映画作り

日本映画大学一期生の三澤拓哉監督にお話を伺いました。

P 3 行政・財団・文化団体関係との懇談会

文化協会活動への貴重な助言をいただきました。

P 4 麻生日舞協会代表の沢村二樹さん

さんに日本舞踊への想いをお寄せいただきました。

P 5 麻生いけばな協会代表の倉田理貴さん

にいけばなへの想いを寄稿して頂きました。

P 5 麻生アークライブ

琴平神社神職の志村幸男さんが志村家に伝わる資料を紐解き地域の歴史を紹介します。

P 6 夏休み親子教室及び文化祭俳句大会を報告します。

P 7 アカデミー部の俳句講座及び、文化祭「もっと知りたいあさおの六大学」を報告します。

P 8 会員の活動

産経国際書展で産経新聞社賞を受賞された木村幾月さん、川崎親善大使に就任されたフリーアナウンサーの秋山雅子さん、土木学会写真コンテストで優秀賞を受賞した小田島寛さんの活動を紹介します。

# 地域に根ざす映画作り

## 日本映画大学一期生の

### 三澤拓哉監督にインタビュー

在学中の初監督作品が国際賞受賞

三澤拓哉さんは、九八七年生まれの二十九才。茅ヶ崎北陵高校卒業後、明治大学文学部に進学。卒業後、日本映画大学に入学し昨年三月卒業。

在学中に脚本監督した『3泊4日、5時の鐘』（製作・和エンタテインメント）が、ギリシヤ・シロス国際映画祭で最優秀作品賞を、北京国際映画祭では新人監督によるコンペティション部門で最優秀脚本賞を受賞した。この映画は、小津安二郎ゆかりの旅館「茅ヶ崎館」を舞台に地域に生きる男女の恋模様をアイロニーたっぷりに描いた青春群像劇だという。

七月三日午後、日本映画大学新百合ヶ丘校舎を訪れ、三澤拓哉さんにお目にかかってお話を伺った。



映画の道に進んだきっかけ

聞き手 映画の世界に進まれたきっかけは何だったのですか。

三澤 高校卒業後、明治大学に入学するまでは教員になろうと思っていました。ただ、教育実習を受けたりする中で、本当に自分が進むべき道なのか悩んでいました。そんな折に、明治大学が主催するイベントに、スタッフとして参加した際、明治大学のOBでミュージシャン・俳優として活躍する宇崎竜童さんと出会ったのが映画の世界に進む大きなきっかけとなりました。それまで趣味としての映画映画業界の方々と話をするうちに映画を職業として考えるようになりまし

た。そうした矢先に日本映画大学が開学することを知り、思い切つて受験しました。

映画の見方を変えた日本映画大学での学び

聞き手 日本映画大学での学びはどんな感じのですか。

三澤 映画を見ること、映画を作ることに徹底的に向き合います。入学から一年半は映画についての基礎を学び、二年次後期より各コースに分かれます。コースは脚本演出・撮影照明・録音・編集・ドキュメンタリー・理論の六つあり、私は理論コースに在籍していました。

聞き手 理論のコースでは何を学ぶのですか。

三澤 様々な視点から映画について深く考えていきます。その視点というのは大別すると二つに分けられると思います。一つは作家論や作品論など映画そのものを批評・分析すること。もう一つは社会学や哲学・思想などと関連させながら映画を考察すること。それに加えて、映画の興行・配給について、小説や評論などについても学んでいきます。

聞き手 理論コースの講義は、監督として映画を製作される時に役立ちましたか。

三澤 アイデアの膨らませ方・発展のさせ方の点で理論コースの講義を通して学んだことの影響が色濃く出ていると思います。

また、理論コースの先生とのやり取りの中で、なぜ映画を作るのか見るのか、と映画との向き合い方を問われる場面が多々あり、それは現場に作り手として立った時の軸になっていると思います。

聞き手 日本映画大学での学びはどんな感じのですか。

三澤 割合として一番多いのはやはり映画や映像に関する職業だと思えます。どの撮影現場にも専門学校時代の先輩も含めて日本映画大学関係者が必ずいる、とよく言われるのですが、私自身も現場に行くことを実感することが多いです。



聞き手 日本映画大学での学びは、映画業界だけではなく卒業生の進路にどう影響していますか。

三澤 映画が好きだったら、ここほど思う存分できることはないでしょうね。他にも映画部門のある大学はありますが、本学は単科大学の良さで、先生と学生の関係が濃密です。

聞き手 映画大学卒業生はどういう職業に就くのですか。

三澤 割合として一番多いのはやはり映画や映像に関する職業だと思えます。どの撮影現場にも専門学校時代の先輩も含めて日本映画大学関係者が必ずいる、とよく言われるのですが、私自身も現場に行くことを実感することが多いです。

聞き手 日本映画大学での学びは、映画業界だけではなく卒業生の進路にどう影響していますか。

また、映画大学では企画・準備・制作・発表とモノ作りの二通りのサイクルを学ぶことができるので、映画・映像関係以外の職業に就く場合でもそれが生きるのではないのでしょうか。

将来は海外制作者との共同製作も聞き手 三澤監督の抱負を聞かせてください。

三澤 直近では今年中に二本目の長編監督作を撮影する予定なので、それをしっかりやりとげること。また、将来的には海外の製作者と共同制作という形で映画を作りたいと思っています。

その他にも、現在、地元・神奈川県茅ヶ崎市で行われている茅ヶ崎映画祭のスタッフをしているのですが、そうした映画を広める活動も同時にやって行きたいと思っています。

地域密着のイベント  
聞き手 映画大学の取り組み

三澤 映画大学が麻生区に来て以来五年くらいこのイベントをやっています。毎年四〇名の小学校四年生から六年生のこともたちを募集し、大学生がサポートをしながら、こどもたちに映画作りを体験してもら

う取り組みをしています。昨年からもアシスタント役でも映画大学に参加しています。イベントは四日間、二日に脚本を

作り、二日目に撮影、三日目に編集、  
そして最終日の四日目にイオンシネ  
マで上映します。

### 芸術の街づくりには

#### 交流の場づくりが重要

聞き手 川崎市は芸術のまちづく  
りを目指していますが。

三澤 「しんゆり・芸術のまち」と  
聞くとKAWASAKIしんゆり映画  
祭をイメージします。「しんゆり・芸  
術のまち」という地域のアイデンテ  
ィティーをより深く根付かせるに  
は映画祭のような期間限定のイベ  
ントに加えて、日頃から市民がア  
ートに触れるような場所作りも大切  
ではないかと思っています。

また、話は少しそれますがフィル  
ムコミッションを立ち上げてロケ地  
の誘致などをしていただけると  
映画制作者としてはありがたい  
です。

(文佐藤勝昭、写真小田島寛)



## 行政・文化財団・関係団体との懇談会

地域とともに歩む文化協会の活性化について

麻生区文化協会は、近年「新しい風

と創造」をテーマに地域と共に歩む文

化活動を目指し、行政(麻生区役所市

民館)・川崎市文化財団(アートセンタ

！新百合21ホール)・昭和音大などと

連携して活動している。今年の懇談会

は、八月二十四日(木)の夕刻から、芸術

文化など関係団体の皆様にも参加い

ただき開催した。

出席者は行政から北沢仁美区長、山

口良和副区長、中村宣彦地域振興課

長、三枝正孝市民館長、文化財団から

は北條秀衛顧問、多田昭彦理事長、池

田健児アートセンター館長、関係団体

からは石井郁朗プレレデーオ代表取

締役社長、植木昌昭あさお市民活動

サポートセンター理事長、丸山博子あ

さお芸術のまちコンサート委員長、樋

口副委員長、佐藤英行麻生区美術家

協会会長が参加、本会からは専門委員

および役員、監事が出席した。

はじめに菅原会長から夏休み親子

教室、文化祭の取り組みなど本会の活

動状況の報告があり、二〇二〇年のオ

リンピック、パラリンピックは、文化的祭

典でもあるので、各団体が身近なこと

として考えてほしい。そして各団体の

取り組みやご意見をきかせてほしいと

挨拶があった。

次に各団体代表の皆様が発言、ご意  
見を紹介する。

北沢 文化協会には麻生の芸術文化

を担っていただき感謝したい。来年度は

予算的に大変厳しい状況下で、行政と

して何ができるかを考える上で、皆さ

んのご意見を聞かせてほしい。

北條 オリリンピックは会長の言う通り

文化の祭典でもある。東京五輪で川崎

はパラリンピックに力を入れるが、文化

面でも貢献したい。文化協会は若い世

代にどう文化を引き継がせるかが課

題である。

多田 現役時代(区長)お世話にな

った文化協会には、側面から恩返し

をと考えている。アルテリッカしんゆ

りでは、プレイベントでの創作活動を

はじめ、麻生区の総力を結集して頂

いた。文化財団は、これからも文化と

スポーツの祭典に向けて頑張ってい

たい。

池田 現在「猫はしる」ミュージカルに

力を入れている。アートセンターは、○

年目の指定管理も受け、順調に運営し

ている。ミニシアターなどは満席とよ

「かわさきレビュー」もアートセンター

を本拠地に年四回公演。麻生の方は見

識が高い。

石井 プレレデーオは、昭和音大の

同窓会が卒業生の出演機会を支援す  
るために作った団体である。アートセン  
ターやテアトロジューリオの指定管理者  
に加え今回「カルツクかわさき」の管理

も受託した。ミュージアでできないこと

をカルツクが補完していきたい。麻生文

化協会は芸術文化の発信を支えてお

り、今後も特長あるイベントを共に企

画していきたい。

植木 サポートセンターは七十五才定

年制を導入し、若返りと新しい会員増

をどうするか。情熱をもったボランティア

を募集したところ、三十名が集まり

「やまゆり」を支えている。情熱をもっ

た人がそれぞれの思いを身近な人にど

う伝えていくかが課題である。

佐藤 文化協会と美術家協会は、アル

テリッカ美術展、デッサン会などと連携

している。次世代に文化を伝えるため、

区民祭のとき、子どもたちに二百号位

のキャンパスに絵を描いてもらい区役

所ホールに展示することを提案してい

る。小さな時から芸術に親しんでもら

うことは重要なので。

丸山 十七年前区役所でランチタイム

コンサート始めた。子どもは財産な

ので、いろいろなアプローチをしていき

たい。シアも元気でやまゆりや文化

協会と連携しながら活動してい

たい。

三枝 市民館は地域の人にあまり知

られていない。そこで今年度地域に根

差した館を目指し、地域コミュニティの

中核である自治会町会長との意見交

換会を計画している。



山口 川崎区より麻生区に来てみて、

芸術文化の盛んな街に驚く。着任して

間もなくアルテリッカや音楽など楽し

ませていただいた。

梶 麻生観光協会は三〇〇名で世代

交代も進んでいる。禅寺丸柿の普及、

麻生川桜まつりに取り組み、地域貢献

スタイル。文化協会はアカデミックな活

動をしているので、さらに学問、教養な

どに広げてはどうか。

両者とコラボをすると新しい風と創造

につながるのでは…。

皆様から頂きました情報やご意見

などを参考にこれからの活動に生かし

て参りたいと存じます。

(総務 橋本周)

# 日本舞踊への想い

麻生日舞協会(沢村一寿) 上田隆義

現在私は町田市鶴川に住んでおりますが、以前昭和六十二年から六年間、麻生区金程に稽古場を構えておりました。

## 沢村流九代目家元を継承

諸事情あつて、歌舞伎舞踊の流れを汲む沢村流九代目家元を止むを得ず引き継ぐ事になり、昭和六十年三月に、ホテルニューオータニにて継承披露致しました。

新家元誕生と期待されまして、郡司正勝先生、仁村美津夫先生、萩原雪夫先生他、芸界に關わる諸先生の多数のご来駕を賜り、未熟な我が身を思うと、身の縮む思いで先生方のご祝辞を頂いたのも、今は昔…。

その後、四季出版社から発刊された「百人の舞踊家」と銘した写真集に新進舞踊家の一人として思いがけず取り上げられましたのも、大きな重責になりました。

先代家元は十三年前に没して、先代未亡人が小学校教師を勤めながら家元代行で流儀を維持してきたとの事でした。

それまでの私は、趣味の一つとして日本舞踊を稽古しておりましたから、今ひとつ流儀の特色や歴史がつかめず、家元業としての心構え、流儀維持の方法等は、過去に私が学んだ各師匠のなさり方を見よう見まねで取り入れてまいりました。中でも、上方舞第一人者で、人間国宝に迄なられた吉村雄輝師から学んだ事は、私の大きな財産となっております。

## 麻生日舞協会の設立

麻生在住の折、平成四年に設立された「麻生日舞協会」会員として、翌平成五年四月三十日に開催された設立記念公演の折には、第二部の「万葉びとの心」と題した創作舞踊の構成振り付けを任せられ、舞踊音楽にはあまり使用されないシンセサイザーの曲や、秦琴(しんきん)という珍しい楽器を使わせて頂き、少々趣の変った作品に仕上げり、好評だったのも、今はなつかしい思い出の一つとなっております。

因みに、私は日本の心を表現出来るならば、伴奏は日本音楽で無くとも良いのでは、と考えていまして、私の製名披露舞踊会では、伝統古典舞踊と別に



平成2年麻生区邦楽祭にて再演したボレロの舞台

ラベルの「ボレロ」を発表し驚かれました。その後、町田に移転する事になり、教会からの脱会と思いましたが、在籍を勧められ、少しでもお役に立つならばと今日迄出来る限り協会の邦舞部門に關わってきました。

## 首の神経の損傷から奇跡の回復

その私が、六年前転んで首の神経を痛めたのに気付かず、徐々に麻痺が出て、首から下がほとんど動かなくなり、自宅から救急車で搬送されたのが、一月七日七草粥の当日でした。「頸椎性脊髄症」と診断され手術はしてみるのが神経の損傷がひどく回復はむずかしく寝たきりか良くて車椅子の生活になると宣告されました。が不思議に術後の回復が良く、今、また舞台上に立

てる迄に治りました。奇跡と思えます。一時は踊りもあきらめねば、でも車椅子で踊れるか?なども考えました。流儀維持も思うに任せず、手足

が動かなければ全く仕事にならない障害者になった我が身のことを、ある方から、人間には自分の歩むべき決められた人生がありその分、器がある事、強運弱運があり、人間は努力次第でなんとでもなると思うが宿命から逃れられぬ事、

## 真実の開運を知る事、

沢村流は先代家元の代で終わつていた流儀だろうと、教えられ不思議に心が納得して、今迄気付かなかつた事が見えて来ました。

それからの舞踊活動は、地位肩書等にこだわらず、自分の身を置く時と所と立場で自分の出来る限りの事で、世の中に奉仕貢献して前向きに明るく楽しく、踊つて行こう、すべてに感謝してと考えを改めました。

## 日本の心を表現する日舞

日本舞踊は、自分の心・身体・技術で日本の「心」を表現する舞台芸能の一種で、「心」が材料、「身」が作品と私は考えています。料理に例えれば、材料に感謝して、どう調理すれば最も美味しい料理が出来上がり、人に喜んで食べてもらえるか。同じ材料でも調理の仕方です。いろいろな料理が出来上がります。私の材料である身体は障害者になり、思う様に踊れぬ悔しさや情け無い思いもあります。何とか人様の前に姿をさらけだしてよろしければ召し上がって

みて下さいの思いで、折々の舞台に出演しております。

## 舞台に立つには覚悟が必要

昔は、師匠になる為には、古典舞踊五十曲、祝儀曲「老松」を長唄清元常磐津の三曲で踊り分けなければならなかつたと聞きました。振り付けも、みやたらに誰でも出来る事では無く、それなりの権威技量のある立場の方にしかな許されなかつたとも教えられました。

舞台に立つと言ふ事は見て下さるお客様は勿論、多くの裏方関係者の助力で成り立つ事を考え、自己満足にならぬ様にと私は自らを戒めております。

芸術の域にまで到達するのは至難の業ですが、芸術のまち麻生に關わる人間として、文化向上の為、お役に立てばと、精進して参りたく思ふこの頃です。



「夏休み親子教室」で指導する筆者

# 麻生区文化協会と麻生いけばな協会

麻生いけばな協会(倉田理貴)田中貴美子

麻生区文化協会創立と同時に麻生いけばな協会は文化協会の団体会員として活動を始めました。文化協会の中で、いけばな協会の主な活動は「アルテリッカ新ゆり美術展」、「夏休み親子教室」、「文化祭」です。他の分野の芸術家の方々と、緒の作品展は大変有意義なものです。

夏休み親子教室では、どの流派にもある「自由花」で子どもたちの自由な表現を何より大切に指導しています。流派を超えた合作

それにしても、以前は思いも付かなかった「流派を超えた合作」はアルテリッカ新ゆり美術展で発表しています。



アルテリッカ新ゆり美術展のいけばな展示



あさお区民まつり協賛 麻生いけばな協会展

永く花を生けていますが流派を超えた合作は今まで他で見たことがありません。流派は違っても日本の伝統文化「華道」の共通の心があります。水い時間をかけてそれぞれが身に着けた華道の技術を出し合い、早春の花木で華やかな会場を作ります。これは他の地区の皆様にもご覧になっていただきたいと思えます。

また、今年十一月には、「川崎市二五〇万人都市記念事業」としてアゼリア地下街中央広場で花展が開催されます。いけばな協会から数人で合作一点を出展いたします。

## 麻生区はあこがれの地

なだらかな坂道と緑の丘、富士山に見える場所、麻生区は、私にとって子ども

もの頃からあこがれていた理想の場所です。

前世は毛虫か青虫?と思われるほど私は植物が好きなのです。花はもちろん、草も木も枯葉も、木の根っこでも野菜でも何でも、近くにある植物は全て私の遊び道具。草木と遊びながら作品が出来れば何よりも幸せなのです。

## 栗平にいけばな教室

二〇〇年ほど前、栗平に小さないけばな教室を作り、いけばな協会に入会し区役所やアートセンターのいけばな、毎年の区民祭では他の流派の方々と、緒に花展を開催。都内などで生ける花と同様に麻生区内でも花を生ける機会が多くなったのです。

花は男女を問わず小さな子どもから何歳まででも楽しむことができま

す。日本の伝統文化「いけばな」がずっと続くことを願っております。



あさお区民まつり協賛 麻生いけばな協会展

## 麻生アーカイブス

### 志村家古文書を通じ

#### 地域の歴史を伝える

私どもでは江戸時代中期後期の文書(志村家古文書)二千点ほどを所蔵しています。その一部は神奈川県立公文書館に県史写真製本として補完されています。この時代私どもでは名主を勤めさせて頂いた関係で文書が多く残されたものと思われ

ます。その中で代表的なものは、「王禅寺絵地図」「王禅寺村御用留(記録文書)」「二ヶ領用水に関する絵地図」などがあります。この古文書は一部多くの方に解説されて何冊かの本も発刊されています。初めて本にされたのは「王禅寺村」と題し、昭和六十二年に、当時、琴平神社の権祿宜として奉職していた浜田利明氏が数年掛けて解説し「三百頁に及ぶ解説本を出しました。この本では王禅寺村の様子、増上寺との関わり、星宿山王禅寺のこと、鎮守五社、琴平神社にまつわる話などが書かれています。また、「王禅寺村御用留(記録文書)」が、青葉区古文書之会の方が平成二十八年に発刊しています。この御用留には、江戸時代の近隣の農家の生活形態や、王禅寺村・石川村・川和村・窪田村(他ヶ村)の徳川時代秀忠正室、御江与の化粧料地、そして他界して崇源院になり霊屋料になったこと、又

葬儀の際百姓が三百五十人落髪して御棺担ぎをした由緒を主張し、幕府に「諸役御免、山林竹林守護不入」の特権を得たことなどが書かれています。御用留は、また、世界の産業との関わりについても書かれていて、養蚕が盛んな時代にフランスやイタリヤなどに蚕の微粒子病が流行し、外国の養蚕業が壊滅的な状態に陥った時、東洋の蚕卵紙(サンシユガミ)(蚕の卵子を産み付けた紙)の輸出が増大し、国の重要輸出品となった事。その他、二八六七年の第二回パリ万国博覧会(日本が初めて参加した国際博覧会)の事。地域の様子では、武州・探の来襲を予想し王禅寺村での急遽対策が出され、慌ただしい様子、又幕府倒壊前夜の林場(マクサバ)開発計画の事、酒造統制の事、鷹場制度のことなどなど興味深い出来事が多岐に及んでいます。また収蔵している絵地図の中には、二ヶ領用水に関わるものが多くあります。この用水は、多摩川(玉川)の取水口から稲毛領・大師領までの水路の絵地図です。流域農民間で渇水時水争いが絶えなかつた様で、どうもその後には作られたものが多い感があります。この古文書から、村の様子はもとより、周辺地域、世の中の動向が見えて来ます。多くの方に利用頂き歴史を伝える一助となれば幸いです。

志村辛男

# 平成二十九年年度 夏休み親子教室

実行委員長 橋本周

夏休み親子教室は、定員四二五名を大幅に上回る応募数が五一三件あり、抽選で参加者をしぼり込んだ。当日の参加者は三八八名であった。

講師の先生方は麻生区らしい芸術、文化そして科学にも精通されており十八講座を計画、十七講座の開催でした。「鶴見川と生き物」が悪天候続きのため中止になったのは誠に残念だった。知識も技法も心も豊かに学んだ夏

どの教室も子どもたちは目を輝かし熱心に取り組んでいた。新たな挑戦や体験を通し、多くを学び達成感を味わったようだ。中には二年、三年と同じ講座に参加するリピーター組もいて、子どもたちの将来の生き方に影響をもたらす機会になっているのかと……。

この夏休み親子教室の素晴らしい点



は、講師の先生方が導入の段階で人との関わりや挨拶から始まる礼儀作法、そして文化の伝承などを分かりやすく丁寧指導されていることである。知識も技法も心も豊かに学んだ夏であった。

### サポーターの協力に感謝

各教室、サポーターの方々の協力で、講師の先生方は指導に集中できたこと好評であった。当協会の主要事業の一つであることの意義を改めて認識した。次回はさらに多くの会員にサポーター体験をして欲しいと願っている。

### 運営面に見直しを試みて

「夏休み親子教室」と名称を変えて今年十五年度の節目であり、運営面以下に示す見直しを試み、講師の先生方のご協力を頂いた。

- ・ 外国籍の子どもの参加は日本文化に触れてもらうため別枠とした。
- ・ 会場、指導面を考慮して各教室の定員枠は二十名と限定した。
- ・ 同じ講座を応募した兄弟姉妹については、どちらかが参加決定した場合優先することとした。

各講座の参加者を決定した段階で事務局が作成した受講票のハガキを講師に渡し、宛名書き・投函を依頼した。これにより講師は受講者を把握でき、当日の辞退や欠席などを直接対応できるメリットがあった。

## 第二十九回（十月二十二日） 麻生区文化協会俳句大会

実行委員長 山室茂樹

### 「一般の部」 入選句

川崎市市長賞

目が先に味見している夏料理  
東京都 岸本 洋子

川崎市議会議長賞

まだ恋のできそうな日のさくらんぼ  
麻生区 斉藤きのと

川崎市教育委員会賞

勤行の僧へ老母の団扇風  
麻生区 本多 孝次

麻生区長賞

大試験終へて少女にもどりけり  
麻生区 都留 嘉男

麻生市民館長賞

いにしへの深き吐息や大賀蓮  
麻生区 町田 黎子

川崎市総合文化団体連絡会理事長賞

丸く拭く丸き卓袱台昭和の日  
麻生区 河野真砂子

川崎市観光協会会長賞

二歳児の絵文字の願ひ星祭  
麻生区 橋本 周

麻生観光協会会長賞

わが古着つけて威を見す案山子かな  
麻生区 森 かつじ

麻生区文化協会会長賞

庭石のひとつひとつの酷暑かな  
麻生区 金井 勝夫

### 優秀賞

鳥渡る女工哀史の峠道

風鈴売来るも帰るも風つれて  
都留 嘉男

過疎の村莫塵一枚の花見かな

金目鯛ひっくり返してにらまれる  
池内 英夫

いくつもの帰るはずなき蟬の穴

片蔭に合はせて動く立ち話  
吉野 桃柏

仮設から転居の便り日脚伸ぶ

柿熟るる住めば宮処の苦屋かな  
浅川 壽雄

我が影に逃げる蜥蜴を見て孤独

十二橋くぐりて月の舟路かな  
深野 怜

町の中に残る牛舎や栗の花

初日記老いにも明日と言ふ未来  
大澤 十二草

リュックから秋掴み出す山男

雲の峰牛は静かに塩を舐め  
馬場身江子

語り合ふ郷土の俳誌柿若葉

介護2の妻の掌うすし百合の花  
野口 和子

能舞台初秋の風を笛が裂く

厨の手を拭きて黙禱原爆忌  
村松 栄治

とび魚の鳥の貌して飛びにけり

安保世代老いし種もろとも西瓜  
市川 篁栄

池之上輝夫

梅原 昌子

本年度の俳句大会は、一般の部へは二五二名の方より五〇八句の応募があり、二四名の選者の選により入賞者九名と、優秀賞者二〇名が決定した。尚、当日の席題句会は「白」又は「安」の一字を読み込み、一人一句の投句とし、上位二〇名に賞品が授与された。

また、小学五年生の部へは五三九名の児童より楽しい絵を添えた五三九句の応募があり、麻生区文化協会役員七名の選により優秀賞一〇句、佳作二〇句を決定し、応募した児童全員に作品集が贈られた。

### 「小学生の部」(五年生)

#### 優秀賞

ひぐらしと花火の音で合唱祭

はるひ野小学校 皆川 悠月  
寝そべつて見上げる私に花火降る  
はるひ野小学校 桂 乙葉

メモ書きの手伝いすませる夏休み

柿生小学校 郷野 愛  
海水浴魚も貝も光つてる

王禅寺中央小学校 野崎 凌生

夏休み重いにもつていく旅行

王禅寺中央小学校 川北 利希  
海水浴潜るとそこは水族館

栗木台小学校 万尾 海樞

夜の蟬うすいみどりの羽光る

栗木台小学校 荒田虎太郎  
夏休み自然のふしさがす道

栗木台小学校 吉井 公孝

こんにちはイルカと遊ぶ夏休み

百合丘小学校 阪井 侶太  
目がさめて耳に飛びこむ蟬の声  
百合丘小学校 工藤 和香

### 平成二十九年 「俳句講座」

毎年行われているアカデミー部主催の当講座は、二回目は俳句に関する内容に、三回目は俳句に関わる人には勿論一般参加者にも興味あるテーマを取り上げている。今年も各講座八十人前後の出席者を得て開催することができた。

■第二回 八月二十九日(火)  
講師 吉田 功



俳誌「麦の会」同人幹事長  
現代俳句協会理事  
神奈川県現代俳句協会会長  
代表作

着ぶくれの子を横抱きにバス降りる  
演題 「現代俳句」について

・現代俳句の歴史は、俳人協会との関わりなどを含め一時はきびきい時代もあったが、現在は、「や」「けり」「かな」の使用、「新旧かな使用」等に関して緩やかになっている。  
・現在俳句四協会では俳句にゆかりのある自治体と連携し、俳句をユネスコ無形文化登録を目指している。今後さらに俳句人口が増えることを期待している。

■第三回 九月五日(火)  
講師 本玉 秀夫



きたごち俳句会同人 俳人協会会員  
麻生俳画研究会会長  
代表作 啓蟄や動かぬものに力石

演題 「俳句革新復古の五俳人と俳句史」

・俳句の黄金時代を築いた革新復古の俳人、芭蕉、蕪村、一茶、子規の俳句と俳句史。そして以上の四俳人に加えて、五人目は現在のどの俳人といえるか？

・芭蕉の理念による俳句の基本、即ち有季定型、客観写生等による俳句の作り方について。

■第三回 九月十二日(火)

講師 熊谷 仁士  
前テアトルジューリオショウワ・オーケストラ事務局長



しんゆり芸術祭プロデューサー  
元東京交響楽団首席トランペット奏者  
演題 「音楽を通して学んだこと」

ともいえる優雅で自由な音楽人生は芸術家として大変興味深く、ユーモアのある語りは会場を和やかにした。また、五人の女性による木管五重奏と講師のトランペット演奏が会場を楽しました。

(関森田鶴子)

### 文化祭事業文化サロン部 「もっと知りたい 麻生の六大学」

九月二十三日(土)の祝日に、サロン部は麻生の六大学との交流事業を「第二弾」として実施した。

#### 第一部(ステージ)

昭和音大の六名の学生バンドによる華やかなジャズ演奏でスタートした。体が自然にスイングする素晴らしい演奏だった。昭和音大ではやりたい音楽が何でもできる自由があるという学生の話が心に残った。

田園調布学園大の学生に頼んでいた車椅子の介助体験は、学生が多忙のため急遽、社協を通してボランティアグループ「ささえあい麻生」の方々に頼んだ。若い学生達の後でおばさんが出てきて??などユーモアたっぷりの自己紹介をしてくれた。

次は日本映画大の卒業生の作品「沢のぼり」の上映。神奈川県秦野市出身の女性監督が、在学中自らの体験を基に映画化。父の死を残された家族と乗り越えて行く中学生の男の子の成長を描いていて胸が熱くなった。会場では卒業生が制作した劇場公開作品のポスターが展示され、学校の歴史を感じた。

田園調布学園大は、福祉の大学としてボランティア活動に熱心な学生の姿や就職率も高いとの紹介の後、学生による楽しいワークショップのPRが

あった。

最後は、和光大の「かわ道楽」による活動紹介と、わ太鼓サークル「竜鼓座」による和太鼓演奏で部を締めくくった。「かわ道楽」は、文化協会主催の親子教室でも「鶴見川と生きもの」で活躍している。大会議室に水槽をいくつも運んで来て、鶴見川や岡上地区や和光大の広いキャンパスで見つけられる昆虫や魚などの珍しい生きものを展示した。「竜鼓座」は、若さがはじける勇壮な和太鼓の演奏で会場を目でも耳でも興奮させた。



#### 第二部(ステージとフロア)

四十五分の短い時間だったがワークショップが展開された。田園調布学園大のクルクルレインボー作りにはあつという間に沢山の子どもや大人が集まった。車椅子の介助体験では、車椅子の安全な使い方やたたみ方、さらに実際に市民館の中や外での走行を指導してもらった。実際に車椅子に座ると振動は思いの外、強く響くことが理解できた。

「かわ道楽」の周りには、第一部の時か

ら、小さい子どもたちが徐々に集まっていた。学生達もその都度、説明をしてきていた。説明も上手でついつい引き込まれて、生きものたちの不思議な習性を実物を前にして聞くと感動ものがあった。

ステージでは、「竜鼓座」の面々による和太鼓教室が開かれた。大人も子どもも習いたての技で楽しそうに演奏して拍手喝采を受けていた。

ファイナーレは、再び「竜鼓座」の創作曲を熱気あふれる和太鼓演奏で閉めてくれた。

参加者は一八名で、昨年よりかなり多かった。「前回より内容にパワーを感じて良かった」「全体に内容が良かった」「子どもは映画を製作する学校があることを知り興味がわいたようだ」など感想を寄せてくれた。

(小田島紀美)



舞台上で太鼓の練習をする参加者

# 会員の活躍

## 木村幾月さん(美術工芸部) 産業国際書展で受賞

木村さんは、第三十四回産経国際書展の漢字部門で「産経新聞社賞」を受賞されました。

木村さんの話によると、初出品から三年連続で入選され、今回四回目を受賞されたとのこと、「雨ばかりの今年の夏に心はばつと快晴になった」そうです。

そして「書作に取り組み時は、作品の言葉選びに始まり、前回よりいい作品を、と自分に言い聞かせて取り組んでおり、今回の作品「竜神」は言葉通り強く書いて満足した」と話された。

また、高田宮殿下ご来席の中、明治記念館での授賞式では、会場の厳かな雰囲気の中で、少々緊張気味でぞまれました。あいにくの雨でしたが、有難くも良い記念になった贈呈式であったとも述懐されていた。

(編集委員)



## 小田島寛さん(美術工芸部) 写真コンテストで優秀賞

第十八回「土木のある風景」写真コンテストで、美術工芸部の小田島寛さんが優秀賞を受賞されました。

小田島さんの話によりますと、土木学会主催のこの写真コンテストは、全国各地に眠る歴史的建造物や土木工学的建造物に光を当てたものだそうです。

今回受賞の作品は「時代を見つめる雄姿」というタイトルで、昨年十月、北海道の晩秋の旭岳を撮影した帰り、立ち寄った旭川市内で撮影したもので、橋の名前は「旭橋」。北海道の中央を流れる一級河川の石狩川にかかる鋼鉄製の橋で、八十余年歴史を重ねながら、今なお現役で見た目にも堂々たる橋です。



時代を見つめる雄姿

橋銘板には、「北海道土木遺産」と刻まれ、旭川市の重要な交通を支えているということです。

夕景の温かい光の中で、深緑色のかついで橋に、手前の赤い植栽が添えられ、その強く優しい姿に思わずシャッターを押したそうです。

その後も、各地の橋に魅せられている小田島さんです。

(編集委員)

## 「かわさき産業親善大使」 に就任して

秋山雅子

早いもので文化協会入会から一年半になります。皆様には日頃より大変お世話になり、心より御礼申し上げます。

私は音楽文化や芸術に興味があり、FMのクラシック番組などを担当しておりました。フリー転向後はコンサート司会や、朗読会などに出演しております。

ある時、川崎市の文化行政を推進された梶 亨先生より「著書「童謡・唱歌の文化史」を賜りました。大変感銘を受け、ぜひラジオ番組を作りたいとお願いして、二〇回シリーズで放送したのです。梶先生の解説文は大変格調高く、童謡・唱歌の魅力をおますところなく伝えてくれます。そしてこの夏、梶先生のご発案でCD付き書籍「日本の童謡・唱歌名曲集」となり、文化を形にして後世に残す、という貴重な経験もさせていただきました。

した。

川崎の魅力を外に伝える「かわさき産業親善大使」にも就任し、今後「芸術のまち麻生」についても、ぜひ語っていきたくと考えております。



これから  
もよろしく  
お願い申し  
上げます。

## 文化協会のこれから

十一月六日(月)〜十二日(日)

俳句大会(十月、十二月開催)

小学五年生俳句全作品と

選者の俳句の展示

麻生区役所ロビー

一月七日(土)

あさお古風七草粥の会

麻生区役所前広場

三月三日(土)

文化講演会

麻生市民館大会議室

(主催アカデミー部)

三月四日(月)〜十日(日)

アルテリッカ新ゆり美術展二〇一八

新百合トウチンテイワンホール

四月二十日(土)

文化協会平成三十年年度総会

麻生市民館大会議室

## 編集後記

「からむし63号」をお届けします。「新しい風と創造」をかかげて今号で五冊目になります。最近、新しい取り組みがやつと実りを示し始めたと感じるときがあります。この六十三号の文面の中にも表れているように思います。

変化を周囲に理解してもらうには地道な努力と継続が大切であることを痛感します。文化協会の活動が、今後も内向きにならず、多種多様な外部の組織や人々とさらに関わっていくと良いと思います。

さて、この編集後記をお読みいただく十月には、日本に新しい風が吹いているのでしょうか。目先だけの変化ではなく、平和な未来を見通した「新しい風」が吹いてほしいものです。

(小田島紀美)

## 編集委員

岩田輝夫、小田島紀美、小田島寛、佐藤勝昭、関森田鶴子、橋本周、横須賀朝子

麻生区文化協会会報  
からむし 第六十三号  
平成二十九年十一月一日発行  
発行人 麻生区文化協会

会長 菅原敬子  
編集 麻生区文化協会広報部  
川崎市麻生区万福寺一五一二  
麻生文化センター内

電話 〇四四一九五一一三〇〇  
印刷 (株) エリアブレイン